

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 29 日現在

機関番号：36102
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2011～2012
 課題番号：23700304
 研究課題名（和文） マーク・トウェインの旅行記5作のデータベース化
 研究課題名（英文） To Construct a Cross-Textual Database on Mark Twain's Five Major Travelogues

 研究代表者 浜本 隆三 (Hamamoto Ryuzo)
 徳島文理大学・保健福祉学部・講師
 研究者番号：00583311

研究成果の概要（和文）：

19世紀米国の作家 Mark Twain の旅行記5作について、単語もしくは語句による横断的な検索が可能なデータベースを構築し、web上で公開した。検索語が含まれている章番号とその章の内容を表示し、また、必要に応じてその場でテキストを確認することも可能となっている。

データベース化の作業にともない、副次的に、紀要を含めた論文、および学会・研究会発表、その他の研究成果あげた。とりわけ、Mark Twain の旅行記における「観察」と「内省」の関わりについて考察を深めた。

研究成果の概要（英文）：

This project was planned to construct a cross-textual database on Mark Twain's five major travelogues. The database, now accessible on the internet, allows scholars to make a single word search or phrasal search within the five books. As a result, the chapter number, the brief table contents, and an option which opens the full text of the chapter are displayed.

Due to this project, the secondary outcome such as several papers, presentations, and others have been produced. My interest focuses particularly on the development of Mark Twain's literary way of representing his "observation" and "introspection" over the travel writings.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	600,000	180,000	780,000

研究分野：図書館情報学・人文社会情報学

科研費の分科・細目：文学情報

キーワード：マーク・トウェイン、19世紀米文学、旅行記、データベース

1. 研究開始当初の背景

Mark Twain が生涯で出版した旅行記は

The Innocents Abroad(1869), *Roughing It*(1872), *A Tramp Abroad*(1880), *Life on*

the Mississippi(1883), *Following the Equator*(1897)の5作にのぼる。Twain 研究においてこれら5作の旅行記は広く知られているものの、その研究は必ずしも成熟した段階にあるとは言えない。

旅行記の研究および活用が進まない理由は、旅行記がもつ以下の2つの特性によると考えられる。

一つ目に、旅行記は一般的に旅した道程に沿って書き進められているため、物語作品のように筋書きに意味を見出すことが出来ないという点が挙げられる。

二点目には、雑多な話題がそのつどアトラダムに挿入されているため、複数の旅行記を比較するための共通項が設定しにくいという理由が考えられる。

実際、Twain 研究において旅行記は、基本的にある別の論点を補強するための補助的な資料として位置づけられてきた。いずれかといえば文学作品というより、ノートやメモ、手紙などの一次資料と同様の扱われ方がなされてきたのである。

さらに3000ページを超えるTwainの5作の旅行記に散在している膨大な情報は、専門家の記憶を頼りに探し出されている現状にあり、必ずしもその資料的な価値が十分に活用されているとはいえないのが実情であった。

2. 研究の目的

Mark Twain 研究において彼が残した旅行記の重要性は広く認められているにもかかわらず、そこに描かれた膨大な情報の体系的な分類や整理はこれまで十分になされてこなかった。本研究では彼の旅行記に言及されている単語、および語句の横断的な検索データベースを構築することにより、Twain 研究に、また19世紀旅行記研究に

有用なデータベースの作成を目的とした。

作成したデータベースはweb上で公開で、Twain および関連する研究の効率化と利便性の向上を図り、Twain の旅行記5作の資料的価値の向上を目指した。

さらに、データベース化の作業に伴い、発見した研究テーマに関しても考察を深め、Twain 研究への成果のフィードバックを行うことも副次的な研究目的として期待されるものであった。

3. 研究の方法

当初、研究において準拠する版を Shelly Fisher Fishkin 編による *The Oxford Mark Twain* の各巻に基づく予定していた。というのも、この版を選択する根拠は、各旅行記5作が統一的な編集方針の下に出版されている点と、入手が容易であるため研究の成果が共有されやすいという理由からであった。

結果的には、電子化されたHTML版テキストが必要となったため、研究のための一次資料としては *The Oxford Mark Twain* の各版を用いつつ、データベース化のためのテキストとしては電子テキストとして広く使用されており、かつ定評のある Project Gutenberg の eBook を活用した。

対象とする旅行記は時系列順に *The Innocents Abroad*, *Roughing It*, *A Tramp Abroad*, *Life on the Mississippi*, *Following the Equator* の5作である。

おおまかな作業の手順としては、① LeMaster 編の *The Mark Twain Encyclopedia* および Rasmussen 編の *Critical Companion to Mark Twain* 等を参照しながら、キーワードとトピックの選定、②研究会での意見を参考にしながら、データベースの構築、③web上での公開、以上を予定していた。

4. 研究成果

(1) データベース化に関する成果

本研究が目指していたデータベース作成は、すでにインターネット上で公開し(<http://mttw-database.sakura.ne.jp/test.cgi/>)、その当初の目標を達成している。

研究に着手した段階では、Twain の 5 作の旅行記について、各章の内容をキーワードおよびトピックごとにまとめることで、横断的な検索の可能性を模索していた。研究を遂行しつつ、月例で開催されている関西在住の Twain 研究の専門家が集まる研究会に参加し、広く意見を求めるうち、キーワードとトピックだけでなく、検索内容を自由に設定できる方が有用性はさらに高まるということに気づき、結果的には、単語および語句による検索が可能となるようなデータベースを構築した。

確かに、各研究者が関心を持つ任意の単語を自由に検索できる方が、データベース活用の幅は広がり、また、Twain 専門とする人以外の研究者にも役立てられる機会は増えるといえる。

検索方法は出来るだけシンプルな方が利便性は高いと考え、検索対象とする作品を指定することができる程度にとどめた。

検索結果は、まず、検索語が含まれている作品ごとに、章単位で表示されるようになっている。章番号にくわえ、その章の内容が簡潔に把握できるように、各作品の目次が示す内容も表示し、また、必要に応じて検索語の前後の文脈を確認できるように、各章のテキストを全文、表示できるようにしている。膨大なテキストの中で検索語の所在を容易に特定できるように、検索語は黄色地で表示されるようにし、利便性を高めている。

なお、データベースの検索機能は他の文献への応用も可能となっているため、さらに旅

行記以外の Twain の作品を加えることもできる。すなわち、理論的には eBook として web 上に公開されている HTML テキストすべてを横断的に検索するデータベースの構築も可能であり、ここに本研究が目指す今後の発展の余地がある。

したがって、今後の改良を期して、現在、このデータベースは本研究の申請者の管理下においている。より内容の充実を図った後、さらに幅広く活用されるように、web 上での公開場所および方法について改めて検討していきたい。

(2) 副次的に行った関連する研究成果

本研究の遂行にあたり、Twain の旅行記研究に関するいくつかの副次的な研究成果があった。ここでは主なものに絞って概観したい。

まず、19 世紀文学は旅行記に代表されると言われるほど、19 世紀は旅行記全盛の時代であったが、その時代にあっても Twain の旅行記は他に類を見ないほどの評判を呼んだ。その理由について、同時代の他の旅行記作家の作品を参照しながら、Twain の旅行記の特質について紀要論文「旅する “Average American” の誕生：19 世紀旅行記文学と Mark Twain 旅行記の特質」において考察した。

また、キーワードとトピックの選定を行いながら、旅行記に描かれた Twain の「観察」と「内省」に関心を持ったことで、Twain が時代を経るごとに「観察」から「内省」へと関心をシフトさせていた点について、紀要論文「Mark Twain の観察眼と晩年のペシミズム」において検討した。

さらに、「内省」への関心は、晩年、自身の記憶へと向かい、『自伝』執筆という形で具体化した。口述筆記によって執筆された自伝は、見方を変えれば、Twain が記憶の旅路を記した、記憶の旅行記と言えるのではない

か。この点について、紀要論文「記憶を旅する物語：Mark Twainの自伝と*Autobiography of Mark*」においてまとめた。

この点をさらに深く考察する機会ともなりえたため、研究会「関西マーク・トウェインの会」のメンバーの誘いを受けて、Mark Twainの自伝*The Autobiography of Mark Twain*の第一巻の翻訳も行い、2013年6月に柏書房より出版される運びとなった。

また*The Innocents Abroad*に関して、そこに描かれたTwainのヨーロッパ諸国に対する認識について、査読論文「Laugh! But Solemnly: The Humor and Death in *The Innocents Abroad*」にまとめ、採録決定済みの編集中の段階にある。

以上、主要な成果を概観しても明らかなように、本研究が予定していたデータベース構築という当初の目的に加え、本研究の遂行により、多くの副次的な成果を得ることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 浜本隆三「*The Tragedy of Pudd'nhead Wilson*における悲劇の構図」『徳島文理大学研究紀要』第82号、2011年9月、37-42頁。査読なし
 - ② 浜本隆三「旅する“Average American”の誕生：19世紀旅行記文学とMark Twain旅行記の特質」『徳島文理大学研究紀要』第83号、2012年3月、65-72頁。査読なし
 - ③ 浜本隆三「Mark Twainの観察眼と晩年のペシミズム」『徳島文理大学研究紀要』第84号、2012年9月、93-99頁。査読なし
 - ④ 浜本隆三「記憶を旅する物語：Mark Twainの自伝と*Autobiography of Mark*」『徳島文理大学研究紀要』第85号、2013年3月、105-111頁。査読なし
 - ⑤ 浜本隆三「Laugh! But Solemnly: The Humor and Death in *The Innocents Abroad*」『関西マーク・トウェイン研究』第3号(採録決定済み・編集中)。査読あり
- [学会発表] (計12件)
- ① 浜本隆三、「Mark Twain『自伝』の背景」、関西マーク・トウェインの会 第170回例会、2011年5月、京都光華女子大学。
 - ② 浜本隆三、「口述筆記の自伝を読むということ」、関西マーク・トウェインの会 第171回例会、2011年6月、京都光華女子大学。
 - ③ 浜本隆三、「記憶の記録と自伝執筆」、関西マーク・トウェインの会 第19回大会、2011年9月、徳島文理大学。
 - ④ 浜本隆三、「Quarles Farmの“I”の記憶と自伝執筆」、日本マーク・トウェイン協会 第14回大会ワークショップ、2011年10月、近畿大学。
 - ⑤ 浜本隆三、「エピソードと内省：Mark Twainの連想形式と帰納法」、関西マーク・トウェインの会 第175回例会、2011年11月、京都光華女子大学。
 - ⑥ 浜本隆三、「自伝にみる兄の記憶：Sam Clemensから見たOrion Clemens」、関西マーク・トウェインの会 第180回例会、2012年4月、京都光華女子大学。
 - ⑦ 浜本隆三、「トウェインの砂漠への眼差し」、ASLE-J/文学・環境学会 2012年度大会シンポジウム、2012年8月、近畿大学。
 - ⑧ 浜本隆三、「記憶を旅する物語：*Autobiography of Mark Twain*」、関西マーク・トウェインの会 第20回大会、2012年9月、島根大学。

- ⑨ 浜本隆三、「"A Story without an End" における3つの結末」、関西マーク・トウェインの会 第188回例会、2013年1月、京都光華女子大学。
- ⑩ 浜本隆三、「訓練と無垢：マーク・トウェインの教育観」、日本デューイ学会 2013年度関西支部例会、2013年3月、徳島文理大学。
- ⑪ 浜本隆三、「"How Nancy Jackson Married Kate Wilson"における復讐の構図」、関西マーク・トウェインの会 第190回例会、2013年3月、京都光華女子大学。
- ⑫ Hamamoto Ryuzo, "The *Autobiography of Mark Twain* as a Tapestry of 'National Narratives'", The Seventh International Conference on the State of Mark Twain Studies, 2013, Aug. 2, Elmira College, New York. (ACCEPTED)

[図書] (計1件)

- ① 浜本隆三(共訳) 和栗了・市川博彬編訳『完訳 マーク・トウェイン自伝 第一巻』柏書房、2013年6月。(印刷中)

[その他] (計4件)

[論文翻訳]

- ① 浜本隆三「うまれ変わるマーク・トウェイン」デイビッド・シミエスキ著『マーク・トウェイン 研究と批評』第10号(南雲堂)、2011年4月、37-40頁。

[報告記事]

- ② 浜本隆三(共著)「Quarles Farm の"I"の記憶と自伝執筆(日本マーク・トウェイン協会 第14回大会 ワークショップ「マーク・トウェインの『自伝』第一巻」を読む)」『マーク・トウェイン 研究と批評』第11号(南雲堂)、2012年5月、59-73頁。

[招聘講演]

- ③ 浜本隆三「アメリカ社会と健康志向」城西病院ビオスクリニック「心と身体の健康教室」(於徳島市城西ビオスクリニック)、2011年7月。

[ホームページ]

- ④ 浜本隆三 "The Cross-Textual Database on Mark Twain's Five Major Travelogues" <http://mttw-database.sakura.ne.jp/test.cgi/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浜本 隆三 (Hamamoto Ryuzo)
徳島文理大学・保健福祉学部・講師
研究者番号：00583311